

Pulse interview

西村亮一 会長に聞く

Pulse news

兵庫県医師会館 完成

けんこう

Q&A

Pulse plaza

パルス

健康ひょうご21
すこやかな心と体づくりの情報誌

Pulse

vol
6

2005

特集

兵庫県医師会の活動

「日常の健康こそ、
人生最大のしあわせ」

兵庫県医師会

interview

西村亮一

兵庫県医師会
会長に聞く

聞き手
藤原正美
さん

時代に対応した新会館を拠点に 県民一人ひとりの 健康づくりに取り組む

社団法人兵庫県医師会は昭和22年の発足以来
時代の変遷とともに多岐にわたる活動を展開してきました。

今、新しい兵庫県医師会館の竣工にあたって

改めてその歴史を振り返るとともに

西村亮一兵庫県医師会会長に、新医師会館の役割と

これからの兵庫県医師会の活動について展望していただきました。



IT時代に対応した 女性にやさしい新会館

藤原 ●新しい医師会館の竣工おめでとございます。

会長 ●ありがとうございます。

藤原 ●地上7階・地下1階の堂々たる建物ですけれども、内部はど

のような構成になっているのでしよう。

会長 ●おおまかに言いますと、地下1階は駐車場、1階は受付、2階・

3階は大会議室、4階は事務局で、

5階には役員室や会長室、応接室

があります。6階には大小の会議

室があり、7階には関連団体に入

っていることになっています。

藤原 ●前の会館と比べて、ぜひぶん規模が大きいですね。

会長 ●延べ面積で約2倍です。大会議室は椅子だけなら440席を

用意できる広さがあります。

藤原 ●広さだけではなく、設備も

充実しているということですが、

特に力を入れた点は。

会長 ●第一にIT化ですね。館内

LANはもちろんですが、光ファイ

バーを基本に各フロアにブロー

ドバンド端末を張り巡らせています。

また、会館プロジェクト委員会に

は女性の方にも入っていただいて、

たくさんのご意見を反映させました。

まず、外観のデザインがおしゃれでしよう。快適で安全なトイレや化粧スペース、乳幼児スペース、保育室やクローク、バリアフリー化なども配慮されています。今後ますます活躍が期待される女性医師の皆さんに働いていただきやすい環境づくりに気を配りました。

藤原 ●女性の意見を反映させた会館ですか、それは楽しみです。

会長 ●駐車スペースもかなり増えましたし、何よりアクセスがよいですね。JR三ノ宮駅から歩いて約5分。地下道もありますので雨の心配ありません。

さらに、大会議室などを活用して市民・県民の方とともに地域医療を考えたり、各種団体の方々と医療問題を検討したりする場としても機能します。これも大きな特徴ではないかと思えます。糖尿病の市民講座など、できれば月に一度ぐらいのペースで実施したいと考えています。

藤原 ●市民・県民や地域に開かれた会館ということですね。

会長 ●そうです。まとめますと、IT化、女性にやさしい、アクセスがよい、駐車スペースがある、開かれた場である、というのが特徴でしょうか。

昭和22年発足の 兵庫県医師会 会員数は当時の3・5倍に

藤原 ●兵庫県医師会の歴史を振り返ってみますと、社団法人として発足したのは昭和22年です。発足当初はどれぐらいの規模でしたか。

会長 ●記録には、昭和22年11月に、会員数2439名で発足したとあ

ります。現在の会員数は平成17年4月現在で8824名ですから、約3・5倍ということになります。

藤原 ●活動は半世紀をゆうに超えているわけですが、その間、時代や環境は大きく変わったと思います。

会長 ●歴史をひもとくと、昭和22年から30年代、40年代、50年代半ばにかけて、歴代の会長で言えば小川西庵、天児、鎌谷、渡邊の5代目までは、戦後の混乱を乗り越え医

療保険制度の確立に非常に力を入れました。世界に冠たる国民皆保険の基礎ができたのはこの時代です。

昭和50年代後半からの中田、濱西の両会長時代は、地域医療や救急医療、学校保健などに熱心に取り組んだ時代です。このころは、医師の数や看護師（看護婦）の数、病院の数を増やすことによって地域医療を推進していこうとしました。平成に入り、8代目の瀬尾会長、前会長の橋本会長のころは、量から質へと変わっていった時代ではないかと思えます。医師の生涯教育、医療機関の連携、病気の予防などが非常に重要視されてきた時代です。そして現在は、情報化が進み、福祉や介護の問題、社会保障の問題がクローズアップされてきています。

藤原 ●前の会館はいつできたのですか。

会長 ●昭和54年12月に地域医療や生涯教育の拠点としてつくられました。じつは、それまでの32年間、兵庫県医師会は拠点を持っていなかったのです。県庁の一室や県民会館の一角などをお借りしながら転々としておりました。苦節32年にして、やっとできた拠点でした。

藤原 ●震災のときにも大きな役割を果たしたのでありませんか。

会長 ●医療情報の拠点になりました。事務局長は、地震直後の混乱が落ち着くまで、17日間も、前の会館



に寝泊まりして対応してくれました。去りがたい愛着もありましたが、26年経って会員数が増え、我々の活動範囲も広がり、IT化が進み、女性の医師も増えて、新しい時代に対応するのが難しくなりました。このように見てくると、その時代の医療のテーマと拠点の歴史はリンクしているようですね。

会員の生涯教育をはじめ

多岐にわたる事業や活動を展開

藤原 ● 医師の仕事というと、私たちに見える範囲では診察や手術、健康診断や薬の処方というようなものがありますが、私たちが知らないところでも、たくさんさんの仕事や活動があると思います。

会長 ● おっしゃるとおりです。今回のパルスでは、そのへんも少し紹介させていただいていますが、予防接種や学校医、産業医などの地域保健活動をはじめ講演会などの健康教育活動、医療相談、健康情報の提供ほか、さまざまな活動や事業に取り組んでいます。

藤原 ● 大変、お忙しそうですね。

会長 ● なかでも我々が一番力を入れてるのは、会員一人ひとりの生涯教育です。医学的あるいは学問的な教育だけではなく、人間性を高めるといふか倫理の高揚とい

う意味も含めての生涯教育です。

そうやってレベルアップされた一人ひとりが網目状に連携することによって、全体の力は2倍にも3倍にもなります。つまり、病院と診療所、診療所と診療所、病院と病院など医療機関同士の連携を強化することによって、県民の方々の「かかりつけ医」としての機能を十分に持つてもらおうと努力しているのです。

藤原 ● ほかに、どのようなことがありますか。

会長 ● 公衆衛生や介護保険の問題、健康保険対策などについても、我々だけでなく、薬剤師会や歯科医師会、あるいは大阪や岡山など近隣の医師会、また他業種の方々とも連携して取り組んでいます。さらに、市民団体や行政との連携も含めて「地域医師会活動」として積極的に動いています。

藤原 ● ネットワークが重要だということですね。

会長 ● ご存知のように、今、保険制度は大変厳しい状況です。「公」を減らして「民」を増やすという方向へ日本は進もうとしています。アメリカから強いプレッシャーを受け、「いつでも、だれでも、どこでも」という日本の医療保険制度が根底から覆される危機に直面しています。いわゆる混合診療の全面解禁ですが、これに関しても、我々

は断固として反対していきます。

藤原 ● そのための連携や活動の拠点が必要になってきますね。

会長 ● そういうことです。本当に患者さんのために、県民の方々のためになる医療が提供できるように、広く他団体や他業種の方々と一緒になって取り組んでいかなければなりません。

「かかりつけ医」機能を包括的にバックアップ

藤原 ● 先ほど、「かかりつけ医」のお話が出ましたが、これからの時代をよりよく生きるために私たち県民にできることは、身近な「かかりつけ医」を持つということでしょうか。

会長 ● 「かかりつけ医」というのは特定の医師を指すものではなく、機能や働きを意味しています。まして、「あの人はかかりつけ医だ」というような資格でもありません。県民の方々、患者さん一人ひとり



藤原正美 (ふじわら・まさみ)

ラジオ関西「谷五郎のOH!ハッピーモーニング」などラジオ・テレビでDJやリポーターとして活躍。趣味はカメラと釣り、写真集の出版や日刊紙に釣紀行を連載するほどの腕前。

に選んでいただくものであり、その期待に応えられるように医師は努力し、その医師を周囲がバックアップすることなのです。

藤原 ● 周囲も、ですか。

会長 ● そうです。患者さんが医師から受ける医療というのは、その医師個人のものではなく、その後ろで大学や近くの専門病院など多くの医療機関が支えているものなのです。さらに言えば、救急のシステムも学校保健も産業保健も、その医師を支え、その医師が「かかりつけ医」の機能を十分に発揮することができるようにしているのです。

ここが非常に大事なところで、日本の医療の一番よいところだと思いますよ。

欧米の合理的な世界では、医師と患者の関係は一对一の契約です。しかし、日本の医療の場合は、一人の医師の周囲にプラスアルファの機能がたくさんある。これを、包括的な地域医療と言っていますが、

こういうことをきちんと準備するのが医師会の仕事ではないかと思えます。

藤原 ●身近なお医者さんの後ろにある大きな安心感ですね。地域の診療所は「小さな大病院」とも言えます。

新しい会館を拠点に さらに健康づくりに取り組む

藤原 ●これからの超高齢社会、私たちの健康について何か特徴的な傾向は見られますか。

会長 ●何をもって健康とするかですが、ひとつに健康寿命という見方があります。現在の健康寿命は、およそ74〜75歳でしょうか。ということは、平均寿命は、健康寿命より数年から10年長いことになりました。QOL(クオリティ・オブ・ライフ)の観点からも、この健康寿命を平均寿命に近づけなければなりません。

少子高齢化で、今後、日本の人口はどんどん減少し、このままでは40年先に一億人を割ると言われています。

藤原 ●今から2700万人も少なくなるのですね。

会長 ●これは社会の存亡に関わる大変なことなのです。

最近、メタボリック・シンドロームという言葉をよく聞かれると

思います。いわゆる複合生活習慣病のことですが、血糖値や血圧が高めで、肥満や高脂血症を重複している人たちは、日本人の死亡原因の多くを占める心筋梗塞や脳梗塞になりやすいのです。

厚生労働省の調査では、高血圧や高脂血症、糖尿病(予備軍を含め)、肥満症などの人の数は年々増加しています。一つひとつは軽症であっても複数の因子を持つと発病率が上がります。我々が、糖尿病の講座を開いたり、たばこの問題に

力を入れたりしているのは、そういう背景があるからなのです。

藤原 ●生活習慣病を予防して健康寿命を延ばすためにも、私たちは「かかりつけ医」を持つべきなのですね。

会長 ●「日常の健康こそ、人生最大のしあわせです」というのが、我々、兵庫県医師会のモットーです。何気なく過ごしている平穏な日々の繰り返しですが、どれだけ尊いものであるか。ふだんは、なかなか気付かないのですが、たとえば災害や戦争などで、それができなくな

ったときに、しみじみと感じると思えます。

兵庫県医師会は皆さん一人ひとりの日常の健康づくりのために、新しい医師会館を拠点に、いっその取り組みをしていく決意です。

藤原 ●新しい会館に、私たちの安心が詰まっているわけですね。心強いです。今日は、ありがとうございます。



時代の拠点にふさわしい 兵庫県医師会館が完成



Pulse news

交通至便な神戸・三宮
IT化を主眼に整備

平成17年9月11日、神戸市中央区磯上通に待望の新医師会館が竣工しました。場所はJR三宮駅、阪神・阪急・市営地下鉄・ポートライナー各三宮駅から南東へ徒歩約5分の便利なところです。

ポートライナーに面して建つ地上7階、地下1階の建物は、明るいベージュ色のブロック外壁がおしゃれな印象で、青空によく映えます。

新会館の最大の目玉はIT化です。館内LANは光フ



明るいベージュ色の外観

イバーを基本に各フロア、各会議室に縦横に配線が張り巡らされ、会議テーブルや事務机はどこからでもケーブルが引き込めるように設計されています。

ほかに、各種文書のデジタル保存と提供が随時可能なシステムの導入、メーリングリストの構築、テレビ会議システムの導入、セキュリティの充実など、これからのネット



5階部分に設けられた屋上庭園

トワーク時代にふさわしい設備が整っています。

女性の意見を反映
地域に開かれた拠点

耐震化をはじめ台風などの災害にも万全を期しており、サールームを含めた事務局機能は4階に集中。大津波でも慌てることはありません。また、建設にあたって女性の視点を積極的に取り入れたことも特徴で、快適な化粧スペース、乳幼児のベッドが付いた車椅子用多目的トイレ、クロークの設置など、随所に女性の意見や提案が反映されています。

2階・3階部分が吹き抜けになった大会議室は、テーブルと椅子席で288人、椅子席だけなら440人を収容することができ、テレビ会議システムとも連動する音響通信設備も整っています。

市民や県民を対象にした健康講座なども活発に開催されることになっており、地域住民に身近な医師会館として親しまれることでしょう。

■兵庫県医師会館の概要

所在地	神戸市中央区磯上通6-1-11
建物	地上7階・地下1階
	鉄筋コンクリート造
敷地面積	978.57㎡
延べ床面積	5,435.21㎡
大会議室	スクール形式288人、 シアター形式440人収容
会議室	6室
駐車スペース	26台



2階、3階が吹き抜けになった大会議室

■新医師会館建設ダイジェスト

平成15年(2003)	
2月～	会館建設プロジェクト委員会計8回開催
7月	コンペにより設計会社を決定
10月	代議員会において建設決定
10月	プロジェクト委員会から「IT化に関する提言」
平成16年(2004)	
2月11日	臨時代議員会においてプラン見直し了承決定
3月24日	起工式
9月～	女性会員も加わった「打ち合わせ会」開始
12月	鉄骨の枠組みが立ち上がる
平成17年(2005)	
1月	新住所決定・通知 神戸市中央区磯上通6丁目1番11号
2月	外装完成
3月～	内装工事
9月	竣工

お知らせ

竣工なった兵庫県医師会館で市民公開講座を開催します。

第7回兵庫県医師会市民公開講座

「糖尿病の合併症」

怖い合併症に進む糖尿病をそのまま放っておきますか？

日時●平成17年10月15日(土) 14:00～17:30

会場●兵庫県医師会館2階大会議室

主催●兵庫県医師会、兵庫県糖尿病対策推進会議

共催●ノボ ノルディスクファーマ株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

後援●兵庫県、神戸市、日本医師会、糖尿病対策推進会議、兵庫県歯科医師会、兵庫県薬剤師会、兵庫県栄養士会、兵庫県看護協会、兵庫県糖尿病協会、兵庫県臨床衛生検査技師会、兵庫県理学療法士会、兵庫県社会福祉協議会、兵庫県老人クラブ連合会、神戸市老人クラブ連合会、神戸新聞社

[主な内容]

●記念講演(14:10～15:10)

座長：榎林親教 兵庫県糖尿病対策推進会議幹事

演題：「我が国における糖尿病の現状と発症予防」

講師：春日雅人 神戸大学大学院医学系研究科糖尿病代謝・消化器・腎臓内科教授

●バイオリン演奏(15:20～15:40)

バイオリニスト 北浦洋子

●パネルディスカッション(15:50～17:30)

テーマ：『糖尿病の合併症—怖い合併症に進む糖尿病をそのまま放っておきますか?—』

司会：高本誠介 兵庫県糖尿病協会会長

大原 毅 日本糖尿病学会評議員

パネリスト：

①「糖尿病網膜症—成人失明原因の第1位—」

塚原康友 神戸大学大学院医学系研究科眼科学講師

②「糖尿病と糖尿病性腎症の予防

—人工透析へ進まぬ為—」

福島光夫 兵庫県糖尿病協会(内科医師)

③「糖尿病と心筋梗塞—急性心臓死の防止—」

平田健一 神戸大学医学部附属病院循環器内科講師

④「合併症予防のための食事の注意」

土江節子 兵庫県糖尿病協会(管理栄養士)



参加申し込み方法

① はがき応募

官製はがきに必要事項

1. 郵便番号 2. 住所 3. 氏名(複数参加の場合はすべての方のお名前) 4. 職種 をご記入のうえ、

〒651-8555 神戸市中央区磯上通 6-1-11

兵庫県医師会館内「市民公開講座」係

へお送りください。

② FAX応募

はがき応募と同じ必要事項と「市民公開講座」参加希望 と明記のうえ、

FAX.078-231-8113(兵庫県医師会)まで送信ください。

※①・②いずれも2名以上でお申し込みの場合は、参加票郵送のため、代表者に○印をつけてください。

締め切り

9月30日(金)

定員になり次第、締め切らせていただきます。参加の可否は、参加票の発送をもって代えさせていただきます。

なお、ご参加いただける方には、10月7日(金)までに、参加票を送付します。

お問い合わせ先

〒651-8555 神戸市中央区磯上通 6-1-11

兵庫県医師会館内「市民公開講座」係

TEL 078-231-4114 FAX 078-231-8113

会場へのアクセス

JR「三ノ宮駅」、阪神・阪急・神戸市営地下鉄「三宮駅」から南東へ(ポートルライナー沿い)徒歩約5分

「日常の健康こそ、

人生最大のしあわせです」

特集

をモットーに 日夜、さまざまな活動を展開

兵庫県医師会は、8800余名の会員が一人となり

常に県民の明日の健康を考え、さまざまな活動に取り組んでいます。

日常の診療活動や医学・医療の研さんはもとより

行政や各種団体との連携

少子高齢社会における地域保健事業の推進への取り組みなど

県民の皆さんの目に触れることの少ない活動もたくさんあります。

今回の特集では、そうした兵庫県医師会の活動の一端をご紹介します。



救急医療の 取り組み

地域医療の重要性が叫ばれるなか、

365日24時間、地域の住民が安心して救急医療を受けられる体制づくりが

急がれています。とくに阪神・淡路大

震災以降、兵庫県医師会においても、

災害時を想定した救急医療や初期救急

医療の充実が図られています。

ここでは、兵庫県医師会救急医療担

当役員の鈴木紀元常任理事に兵庫県医師会としての取り組みを聞くとともに、尼崎医師会が実施しているACLS基礎コース講習会のもよう、神戸市医師会の小児科救急医療システムをレポートしました。

本来、救えるはずの 命を救うために

ACLS (Advanced Cardiovascular

Life Support) はアメリカ心臓学会が提

唱するガイドラインで2次救命処置と

も言われ、心停止患者の救命処置の世

界標準となっています。

兵庫県下では、このACLSの普及

について、数年前から、病院の医師な

どで構成される「ACLS兵庫」の自

主的な活動や日本救急医学会のメンバ

ーの指導的な活動、尼崎市や姫路市な

どの団体のコア・メンバーによるワー

キンググループの活動などが行われて

きました。

兵庫県医師会でも、都市部や大病院

だけではなく、県下全域にACLSの

知識や実技を行き渡らさなければなら

ないと考え、平成15年7月、兵庫県医

師会が中心となって兵庫県救急医療研

究会を立ち上げました。

平成16年3月には、日本医師会がA

CLS研修制度の要綱を作成。兵庫県

医師会もそれに沿った研修の実施を郡

市区医師会に積極的に働きかけています。

また、研修計画の策定や実施にあたっ

ては「ACLS兵庫」の協力やサジェ

ストを得ています。

今年、新しく建設された兵庫県医師会館でも、全県の郡市医師会の救急担当の役員を対象にしたACLS研修を2回にわたって行う予定で、このほかにも、未実施地区の神戸市と西播磨で各1回の研修を行う予定になっています。

同時に、明年に国体の開催を控え、

兵庫県医師会では、健康スポーツ医学

委員会が中心となってAED(自動体

外式除細動器)の設置と講習を進めて

います。

日本では、病院外での心臓突然死が

年間2〜3万人と言われています。そ

の原因のほとんどが「心室細動」です。

「心室細動」は心臓が痙攣して、酸素を

含んだ血液を体内に送ることができな

い状態です。この「心室細動」を治す

唯一の方法が「除細動器」という装置

で電気ショックを行うことです。「心室

細動」が起きると時間の経過とともに

脳へのダメージが大きくなり、生命に

危険がおよびます。一刻も早くAED

による救命処置が必要で、平成16年7

月から、広く一般にAEDを使用した

救命ができるようになりました。

「ACLSにせよAEDにせよ、目的は、

本来救えるはずの人を救いたいという

ことです。もし、目の前で人が倒れたら、

アメリカでは10人中9人がなんらかの

処置を行うのに対して、日本では10人

中1人という調査結果があります。最

大の理由は、知識や技術がないことです。

救命意識を広く普及していくためには、

そうした機会を数多く設けることと、

繰り返し訓練を実施することが大切です」

と、兵庫県医師会救急医療担当役員の鈴木紀元常任理事。

兵庫県医師会では、こうした救命処置の知識や技術を習得する機会をシステム化し、常設化するために積極的に取り組んでいます。

一方、小児科の救急医療については、兵庫県医師会は平成14年から小児救急医療研修会を開催し、小児科専門医以外の医師、看護師、救急隊員に参加してもらっています。

「いま、小児科医が足りないと言われていています。小児の救急が多いという現実がある一方で、救急医療に携わる小児科専門医は多くありません。そこで、小児科専門医以外の医師にも小児救急の知識や技術を習得していただき、スタッフの必要数を確保しようというものです」と鈴木常任理事。

ほかにも、医師、看護師、救急隊員を対象にした「小児科救急症例検討会」を実施し、実際にあった事例を持ち寄って検討する場を設けています。これは、兵庫県の委託事業として県下10カ所で行っています。

「参加者の反応はいいですし、皆さん前向きです。習熟のための複数回受講が、今後の課題でしょう。また、健康教育を含めて、医療機関の上手な掛かり方など、親ごさんへの教育も必要だと思います」と、鈴木常任理事は今後を展望するとともに、中長期的な観点に立った施策を行政に期待しています。

Report 1

ACLS基礎コース講習会で実践を想定した救命処置実習

ピッピッピッピッ。心拍を表す電子音が鳴りだすと、受講者の表情がぐっと引き締まりました。「1、2、3、4...」。倒れている人に見立てた人形に、受講者が心臓マッサージと人工呼吸を繰り返します。

ここは、去る6月26日に行われた尼崎市医師会ACLS基礎コース講習会の会場です。この基礎コースでは、気道確保や人工呼吸などの1次救命処置、気道管理（挿管）、モニター心電図の読み方、AED（自動体外式除細動器）の使い方など一連の救命行為を実習します。

今回の受講者は、尼崎市医師会の会員および看護師、救急救命士の計18人。午前中にひと通りのレクチャーと実技を終え、午後は「病院の待合室で患者が倒れた」など実際の場面を想定した心停止患者の蘇生訓練を行いました。

倒れている人に声をかけて息と意識の有無を確認。意識がなければ大声で人を呼ん



人形をモデルに真剣な表情で



気道を確保して息があるかどうかを確認



AEDを使いながら頸動脈で脈を確かめる

で119通報を依頼。「本で勉強して知ってはいましたが、実際にやってみると、なかなか思うようにはいきません」と看護師の一人。初めて参加したという医師は、やや緊張がみ。「大声を出すこととチームワークが大切ですね」と感想を述べていました。

一方、これらのことを既に、ふだんから実行している救急救命士は、さすがに落ち着いています。日常業務の確認の意味で職場の全員が順次受講しているそうです。

「尼崎市医師会としては3回目の開催。回を重ねるごとに受講希望者が増えています」と、コースディレクターの一人で関西労災病院救急部・重症治療部副部長の岸正司医師は、救急医療への意識の高まりを実感しています。

Report 2



神戸市西区にある神戸市医師会
小児科休日急病診療所



レントゲン室も人気キャラクターの
マットなどで雰囲気づくり

小児科休日急病診療所に 1日平均100人近い患者が

子どもの救急医療に対する市民の関心やニーズが高まってきていることから平成14年度、小児科人口が多い市の西地域において小児科休日急病診療所を開設し、小児科の救急医療体制の充実を図ることになりました。

「小児科の対象となる15歳未満の人口の約40%が須磨区、垂水区、西区に集中しています。この小児科休日急病診療所で患者さ

神戸市および神戸市医師会では、昭和46年の休日急病電話相談所の開設に始まり、昭和50年の夜間急病診療所の開設など、順次、救急医療体制の整備を進めてきましたが、初期救急としては近年まで急病診療所が市内1カ所しかなく、小児科の受付時間は夜間21～24時に限られていました。その結果、軽症であっても2次指定の病院へ患者が集中してしまう傾向がありました。

また、少子化・核家族化が進み、子どもの救急医療に対する市民の関心やニーズが高まってきていることから平成14年度、小児科人口が多い市の西地域において小児科休日急病診療所を開設し、小児科の救急医療体制の充実を図ることになりました。

通常は医師1・5人体制で対応し、感染症の流行期や11～3月は午前2人、午後2人の体制で対応します。診療所内には薬剤師も常駐していて、ここで調剤します。小児科医が減り続けている現在、インフルエンザのシーズンなどは、待ち時間が2～3時間にもなるそうです。

昭和46年の休日急病電話相談所の開設に始まり、昭和50年の夜間急病診療所の開設など、順次、救急医療体制の整備を進めてきましたが、初期救急としては近年まで急病診療所が市内1カ所しかなく、小児科の受付時間は夜間21～24時に限られていました。その結果、軽症であっても2次指定の病院へ患者が集中してしまう傾向がありました。

また、少子化・核家族化が進み、子どもの救急医療に対する市民の関心やニーズが高まってきていることから平成14年度、小児科人口が多い市の西地域において小児科休日急病診療所を開設し、小児科の救急医療体制の充実を図ることになりました。

患者さんの症状の大半は、のどの痛みや腫れ、発熱、下痢で、ほとんどの患者さんは診察を受けたあと薬を処方してもらおうと落ち着いて帰っていきます。帰るときは、さすがに、

救急医療の現場では、ケガや病気の重症度に応じて、多層的な体制がとられています。

神戸市の救急医療体制は…

初期(軽症～中等症)救急医療体制

- 休日急病電話相談所
- 神戸市医師会急病診療所
- 神戸市医師会小児科休日急病診療所

2次(中等症～重症)救急医療体制

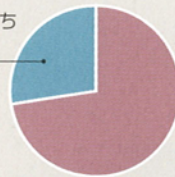
- 市内59病院が輪番制による参加
- 市立西市民病院
- 西神戸医療センター

3次(重症～重篤)救急医療体制

- 市立中央市民病院(救命救急センター)
- 神戸大学附属病院
- 県立こども病院
- 兵庫県災害医療センター

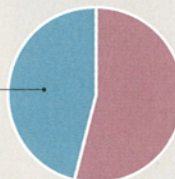
■ 救急患者受け入れ件数

187,527件のうち
小児科が27.3%



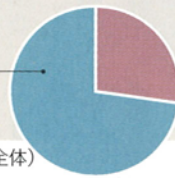
■ 休日急病電話相談所の相談件数

相談件数のうち
46.1%が小児科



■ 急病診療所の患者数

患者数の
72.8%が小児科



(平成15年 神戸市全体)

保護者の顔もほっとした表情です。

この小児科休日急病診療所の年間の患者数は、平成16年度で6075人。一日平均で86・8人になります。風邪の季節など、一日平均150人を超える月もありました。救急車で搬入されてきた患者は5人。また、この小児科休日急病診療所から2次・3次の救急医療機関へ運ばれた患者は20人でした。このことからわかるように、患者のほぼ100%近くが、初期救急医療で対応できているということになります。

兵庫県医師会の主な活動

地域保健活動

■感染症サーベイランス事業

兵庫県では法定・指定伝染病のほか風疹や手足口病などの感染症を適切に予防し、流行を未然に防止することにしており、県下約140の医療機関が全面的に協力しています。

■予防接種事業

保健所・市町が行う各種の予防接種事業に積極的に協力しています。

■健診事業

保健所・市町が行う妊産婦健康診査、乳幼児健康診査、1歳6カ月児健康診査、3歳児健康診査、老人健康診査などの各種健診事業に対して積極的な協力態勢をとっています。

■学校保健事業

研修会を開催して学校医の最新知識の吸収に努めるとともに、心臓検診、学校における感染症対策、こころの健康問題など、学校における健康教育対策を積極的に行っています。

■産業保健事業

医師は産業医として労働者の健康保持増進を図り、作業環境も含めた総合的健康管理に努めています。県医師会では産業医の教育と研修を計画的に進めています。

■その他の地域保健事業

このほかにも、県医師会では各種の地域保健事業に協力しています。

健康教育活動

県民の健康に対する要望に答え、本会並びに郡市区医師会では「兵庫県健康大学講座」を始め各種講演会を開催しています。

医療相談

毎週金曜日午前中に「ハイこちら医師会」を開設し、電話により県民の医療相談等に応じています。

健康情報等の提供

ラジオ・新聞などで健康情報を提供しています。

以上、いくつかの現場をレポートしましたが、医師会の活動のすべてを誌上で紹介することはできません。しかし、目に見える表舞台だけではなく、日常の暮らしの舞台裏にも、昼も夜も、そして休日も、頑張っている医師の姿があります。県民の皆さんの、今日と明日の健康と安全のために。

健診事業の取り組み

県民の皆さんの健康を守り、病気を予防するための健診事業は、医師会の最も重要な活動の一つです。保健所や市町、健康保険組合などが行う各種健康診査事業には郡市医師会が参画・協力していますが、兵庫県医師会でも積極的な協力態勢をとっています。ここでは、西宮市医師会の健診事業を例に、その活動状況を紹介いたします。



西宮市総合福祉センターに隣接する西宮健康開発センター

西宮健康開発センターを訪ねて

西宮市医師会が運営する西宮健康開発センターでは、市民が気軽に安い費用で、しかも短時間で健康チェックと健康管理ができるように、人間ドックおよび各種健診を行っています。

人間ドックは、兵庫県2時間ドックを基本に一般市民を対象にしたコースと、厚生労働省の委託事業として政府管掌健康保険による健診、そして、労働安全衛生法に基づき健診の3種があり、土曜日や日曜日に

も実施されています。昨年度の間ドックの受診者は9723人でした。「人間ドックは女性の希望者が増えていきますね。とくに主婦や若い世代の受診が伸びています。生活習慣病などに関心を持ちはじめ年代が低くなっているのは、よいことだと思えますね」と、西宮市医師会診療所健診部の嶋田美恵子看護師長。

元気な人でも1年に1度の健康チェックを受けてもらおうと、西宮市と西宮市医師会では、「誕生月には人間ドックを！」と提唱。国民健康保険の助成や市の助成などを活用して、健康づくりと生活習慣病予防のためにと受診を呼びかけています。

また、西宮市の北口保健福祉センターでは「市民すこやか健診」や「女性のための

検診」があります。40歳、50歳、60歳の節目総合健診や健康診査、がん検診、結核検診などを行っており、「女性のための検診」では、マンモグラフィ併用の乳がん検診、子宮頸がん検診および骨粗鬆症検診の3点セットが大変好評だそうです。

このほかにも、西宮市医師会では、健診後の相談や健康指導、栄養指導、胃内視鏡などの2次検査、産業保健指導、診療事業（障害者児）、居宅介護支援事業など、さまざまな活動を展開しています。また、西宮健康開発センターでは会員医療機関を対象にした臨床検査も行っています。



「ご家族は？」「気になることはありませんか？」と医師がゆったりとやさしく質問

Q&A

専門医がやさしく お答えします



兵庫県医師会では、新聞、ラジオ、インターネットでみなさんからの健康や医療に関するご質問、ご相談を受け付けています。いずれも、すべての診療科目にわたり専門医が親身になって、わかりやすくお答えします。どうぞお気軽にご活用ください。

このページでは、これまでに寄せられたご質問の中から比較的多くの方からいただいた3項目を例にあげて掲載しています。

みなさんの健康づくりに兵庫県医師会の相談コーナーをご活用ください。

神戸新聞「カルテQ&A」……………毎週水曜朝刊からだ面
ラジオ関西「みんなの健康相談」…毎週土曜 午前7時50分～8時
【ホームページ】……………<http://www.hyogo.med.or.jp>



6歳の長男がおたふくかぜと診断されました。どんなことに注意すればいいですか。(31歳・女性)



おたふくかぜ(以下ムンプス)は、流行性耳下腺炎の別名です。ムンプスウイルスは、耳下腺腫脹前7日ごろから腫脹後9日ごろまで、上気道に排出され感染力を持ちます。学校保健法では、出席停止期間の基準を「耳下腺の腫脹が消失するまで」としています。感染力がある期間は、他児への接触を控えますよう。

ムンプスには次のような合併症があり、ムンプスで治療を受けている途中であつても、これらの症状がみ

られたら、速やかにかかりつけ医を受診しましょう。

① 髄膜炎、脳炎
無菌性髄膜炎は最も多い合併症で、発生頻度は約10%です。ムンプス髄膜炎は耳下腺腫脹後3～5日に発症することが多く、発熱、頭痛とともに嘔吐、首の痛みなどの症状があれば、ムンプス髄膜炎が疑われます。

② 睾丸炎
小児では少なく、思春期以降の感染では約20～30%に合併するといわれます。耳下腺腫脹後1週間以

内に発熱、悪寒、下腹部痛を伴って発症します。

③ 睇炎
感染者の数%に合併します。激しい上腹部痛、嘔吐などを伴って急性に発症します。

④ 難聴
ムンプスに罹患後、多くは1週間以内に片側性の神経性難聴として発症します。難治性の聴力障害を残すため、注意が必要です。

⑤ その他の合併症
腎炎、心筋炎、血小板減少性紫斑病、関節炎などがあります。

以上、ムンプスにかかったときの注意点ですが、基本は、ムンプスにかからないようにすることです。そのためは、ムンプスワクチンの接種をおすすめします。接種にあたっては、かかりつけの医師とよく相談してください。



閉経後の骨粗鬆症が心配です。(50歳・女性)



加齢に伴って起こる骨粗鬆症は「老人性骨粗鬆症」と「閉経後骨粗鬆症」に分けられます。前者は老化に伴う活性型ビタミンDの産生低下や骨形成に重要な腸や腎臓の機能低下が原因ですが、後者は閉経による女性ホルモンの欠乏が原因です。したがって、男性は年と

もにゆっくりと骨量が減っていくのに対して、女性は閉経すると女性ホルモンが急速に減るため、とくに閉経直後の10年間で骨量が約15%も減ります。そのため、高齢者の大腿骨骨折は女性が男性のおよそ10倍多く発生し、寝たきりの大きな原因になります。



骨粗鬆症は骨折するまで自覚症状がほとんどありません。そこで、閉経後は骨粗鬆症の予防に努めることが肝要です。それにはまず、骨量を測定して骨粗鬆症の状態を把握する必要があります。もし、骨量が減少していれば、薬による治療をおすすめします。とくに女性ホルモン剤補充療法は閉経後の骨量減少に劇的な効果を示します。ただし、治療効果と副作用を勘案して、治療の継続、変更あるいは中止を判断することが必要になりますので、治療を受けるに際しては婦人科専門医師にご相談ください。また、薬だけに頼るのではなく、カルシウムの多い食事や女性ホルモン類似物質（ラロソノイド）の豊富な大豆製品などを積極的に摂取するとともに、骨量を増加させるための運動（日8000歩以上の歩行運動が推奨されている）を心がけてください。

これからの季節、乾燥と寒さから家族の肌を守るには。(44歳・女性)



お年寄りやアトピー性皮膚炎などの乾燥肌の乳幼児では、冬季になると肌の乾燥がとくに増強して、ガサガサになったり、かゆみを伴ったりする傾向にあります。予防対策としては、軟膏療法と皮脂の保持の2つに大別されます。

軟膏療法としては、かゆみを伴い、湿疹性変化が強い場合にはステロイド剤の外用が有効です。ただし、ステロイド剤は皮膚疹（皮膚の発疹）の状態がひどいときに短期集中外用にとどめるべきで、いつまでも塗り続けていてよいものではありません。皮膚疹が改善したら直ちに外用を中止し、以後は、いわゆる保湿剤への変更が望まれます。

保湿剤にはワセリンをはじめ尿素軟膏、ヘパリン類似物質軟膏など、さまざまな種類があります。いずれも皮膚疹の状態がひどいときには効き目はありませんが、ある程度落ち着いた段階で塗ってみて、肌がしっとりとした状態が長く保てるものを選ぶとよいでしょう。最近では、市販薬の中にも、セラミドという皮膚の細胞間の潤滑油のような役割を果たす成分を多く含んだ外用剤がありますので、試してみる価値はあると思われれます。

一方、皮脂の保持としては、とくに入浴時に注意が必要です。肌がかゆいと、ふだんより念入りに洗いたい気分ですが、これは逆効果です。冬季には汗や垢など皮膚面から洗い落とさなければならぬ物質はほとんどありませんので、むしろ欠乏しがちな皮脂を大切にして「洗すぎない」ことが重要です。同様に乾燥肌の人は乾布摩擦なども厳禁です。また、熱すぎる風呂に注がるのも、かゆみを増強する原因になりますので避けるほうが無難でしょう。



郡市区医師会からのお知らせ

●神戸市東灘区医師会

第13回地域医療シンポジウム

平成17年10月1日(土)14:00~16:30

場所●東灘区民センター5階うはらホール

内容●講演「映画を通して老化に思うこと」

映画監督 大森一樹氏

シンポジウム

健康と生活習慣VI「いきいき生きる」

~すこやかに年を重ねるために~

●神戸市灘区医師会

第8回灘区民健康特別講座

平成17年10月22日(土)14:00~

場所●灘区民ホール

内容●排尿のトラブルについて

1) 看護師の立場から

2) 男性の頻尿・尿失禁・排尿困難について

県立総合リハビリテーション

中央病院泌尿器科医長

仙石 淳氏

3) 女性の頻尿・尿失禁・排尿困難について

川口レディースクリニック

川口恵子氏

灘区民健康講座

平成17年11月25日(金)14:00~

場所●灘区医師会館

内容●足の変形と痛み

ふじむら整形外科クリニック

藤村幸毅氏

●伊丹市医師会

第5回市民健康フォーラム

平成17年11月12日(土)14:00~16:30

場所●いたみホール(伊丹市宮ノ前1-1-3)

内容●テーマ「食と健康」をもとに「口と全身の健康」「正しい栄養の取り方」「健康食品について」の講演。参加無料

●川西市医師会

第15回かわにし市ヘルストーク

平成17年12月3日(土)14:00~16:00

場所●みつなかホール(阪急川西能勢口)

内容●演題:「ほけ」のメカニズム

講師:島根大学医学部精神医学講座教授

堀口 淳氏

●姫路市医師会

第1回救急医療フォーラム

平成17年11月19日(土)

13:30~16:30

場所●姫路市文化センター 小ホール

内容●テーマ「みんなで創ろう」よりよい救急医療

講演:「だれでもできる救急のABC」

姫路医療センター麻酔科

磯部尚志氏

「BLS(一次救命処置)、AEDを含めた救急処置の実際」

姫路市消防局

ほか

●宍粟郡医師会

脊椎ストレッチウォーキング

in宍粟2005

平成17年9月19日(月)9:30~12:00

場所●波賀B&G海洋センター・メイプルスタジアム周辺コース

内容●健康講座、相談

3km、5kmウォーキング

●神崎郡医師会

脊椎ストレッチウォーキング

in神崎2005

平成17年10月2日(日)10:30~12:30

場所●市川町文化センター

内容●健康講座、相談

3km、5kmウォーキング

BOOK SELECTION

『もったいない』

■ブラネット・リンク編/マガジンハウス 1,000円
ケニアの環境副大臣で2004年ノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイさんが日本で感銘を受けた言葉「もったいない」。マータイさんは、ごみ削減や資源の再利用の精神につながるこの言葉を環境保護の合言葉「MOTTAINAI」として世界に広めようとしています。この本では、「食事を残すのはもったいない」など、日常生活の「もったいない」エピソードを絵と文でわかりやすく説明しています。



『免疫力を上げる「食」の本』

■オレンジページムック 840円
粘膜を強くする食事など免疫力を上げる食事や、バナナやヨーグルトなど免疫力アップの食材、おかすのレシピなどが網羅されています。写真やイラストが豊富で見やすく、免疫力の基礎知識や免疫力がダウンしたときの症状別「食の知恵」など、読み物としても面白くてためになります。



医学雑学・おもしろ事典

腹八分目って、どれぐらい?

「腹八分で医者いらず」ということわざがあります。健康のためには、大食いや飽食を避けるのがよいということですが、腹八分目って、どれぐらいでしょう。いつも食べている量の8割?これは、単純に量のことを指しているのではなく、ゆっくりとよく噛んで、適度な満腹感を得ることを言っています。満腹感には、その時の気分や食卓の雰囲気も影響します。楽しく食べて、「もうちょっと食べたいな」というぐらいでお箸を置くのがよさそうです。食べるだけでなく、生き方にも通じるような気がしますね。

3 オムロン電子体温計

「けんおんくん」毎回2名様

わきにしっかりフィットする新スタイルで30秒検温を実現!大型液晶表示で見やすく、子どもからお年寄りまで安心して使用できます。

●提供/オムロンヘルスケア



4 ジョブスト

毎回2名様

医療技術から生まれた圧迫機能ストッキングです。働く女性の脚をファッションブルにサポートして疲れやむくみを防ぎ、美脚へ導きます。

●提供/テルモ



5 アカシヤ・山のはちみつ

毎回3名様

地元六甲山麓で採れたおいしいはちみつです。なかでも、アカシヤ蜜は、上品な香りとクセのないまろやかさが特徴です。季節の果実を漬けて自家製シロップ

を作ってみてはいかがでしょうか。
●提供/六甲みつばちハニ一農場神戸店



6 クマのぬいぐるみ

毎回2名様

日本医師会のキャラクター、赤いハートの鼻を持つ白クマくんです。白い体は白衣を、赤いハートは生命の象徴である血液と、慈悲のシンボルである心臓を表しています。(高さ20cm) ●提供/日本医師会



healthy trend

韓方と高麗人参

韓国では漢方のことを「韓方」といいます。人気ドラマ『宮廷女官チャングムの誓い』でご存知の方も多いでしょうが、「薬食同源」を基本に生薬や鍼灸などを用いて病気の治療を行います。なかでもよく登場するのが高麗人参。高麗人参はウコギ科の多年草で、ふつうのニンジン(セリ科)とは全く別のもので、滋養強壮に効能があり、主に根の部分を薬として用いますが、根の形が人間に似ていることが「人参」という名前の由来だとか。古くは不老長寿の妙薬と珍重され、正倉院の宝物にも見られます。日本では江戸時代に幕府の薬園で栽培したので御種人参(オタネニンジン)とも言われます。

パルスプラザ

Pulse p l a z a

パルスプラザはお知らせと交流の広場です。
皆様のリフレッシュと健康づくりに
お役立てください。

INFORMATION

兵庫県医師会からの お知らせ

分科会や都市区医師会主催の行事、
県民の皆様に参加していただく事業などを
ご案内します。

分科会からのお知らせ

●兵庫県眼科医会

眼科僻地検診

平成17年10月30日(日)

例年どおり養父市において、眼科医会会員有志
約20名参加のもと無料眼科検診を行います。

目の愛護デー関連行事

平成17年10月初旬

神戸市、尼崎・伊丹市、宝塚・川西市、明石市、
姫路市、加古川市、三田市、三木市、淡路地
区の県下9会場において、目の無料相談、公
開講演会を行っています。

●兵庫県皮膚科医会

「皮膚の日」講演会 市民公開講座

平成17年11月5日(土)

内容●よく見られるカビによる皮膚病

—水虫など—

大阪回生病院前皮膚科部長

庄司昭伸氏

●高齢者に多いありふれた皮膚病

近畿中央病院皮膚科部長

佐藤健二氏

●兵庫県整形外科医会

第11回「骨と関節の日」市民公開講座

平成17年10月6日(木)14:00～16:30

場所●神戸市産業振興センター

(神戸ハーバーランド)

内容●テーマ「スポーツと整形外科」

【お問い合わせ】

骨と関節の日事務局 TEL0795-42-8856

●兵庫県小児科医会

第17回日本小児科医会セミナー

県民公開フォーラム(入場無料)

平成18年6月11日(日)15:30～17:00

場所●ポートピアホテル(神戸市中央区)

内容●テーマ「子どもの食を考える」

1) 基調講演「食と命」

家森幸男(京都大学名誉教授)

2) 講演「子どもの食の問題点」

根岸宏邦(愛仁会高槻病院理事長)

3) 講演「子どもの食を引き出す」

坂本廣子(食育・料理研究家)

●兵庫県耳鼻咽喉科医会

耳の日行事

毎年3月3日前後、県下各地で開催。耳に関する
講演や無料相談、大学病院・神戸中央市民病院で
の無料相談などがあります。詳しくは、3月3日以
前の神戸新聞に「耳の日」座談会とともに告知し
ます。



いつでもどこでも 首筋をサポート!

首の左右、前後のプレを防ぎ、頭部を垂直にキープする
枕です。頭部にジャストフィットし、首への負担が
軽減されることで、首
筋や肩のコリ・疲れが
ほぐれます。コンパクト
で持ち運べるので、
乗り物での移動中やオ
フィスの休憩も快適!
2,625円(東急ハンズ
三宮店6階/Bフロア)



協力●東急ハンズ三宮店

商品に関するお問い合わせは【東急ハンズ三宮店】☎078-321-6161(代)まで。

GOODS●SELECTION

5つのピンホールで 目の体操を

仮眠や休憩時のアイマスクのほか、疲れ目のストレッチ
ングにも効果的。5つのピンホールを1つずつ左右
上下に繰り返して見
ると目の体操になり
ます。
赤1,029円、
黒924円
(東急ハンズ三宮店6
階/Bフロア)



温めた石で足元から リラクゼーション

海外のスパで話題のメニューが自宅で体験できます。
まず、お鍋で温めた石をミントンタオルに入れ、青竹踏
みの要領で足ツボを刺激。石
の温度が熱めの風呂くらいに
なったら、足指の間にセット。
石のぬくもりが体を芯から温め、
クセになる快感です。
1,995円(東急ハンズ三宮店
3階/Aフロア)



QUIZ & PRESENT

まちがいさがし

AとBの2枚の絵には違
いが4つあります。1から
9のピースの中で違
うところが含まれているピ
ースの番号を4つ答えてく
ださい。正解者の中から
抽選でステキな賞品をプ
レゼントします。

1	2	3
4	5	6
7	8	9



応募方法

ハガキにクイズの答え(番号4つ)、住所、
氏名、年齢、職業、電話番号、ご希望
賞品の番号ひとつをお書きください。

【宛先】

〒651-8555神戸市中央区磯上通

6丁目1-11

兵庫県医師会「パルス・プレゼント」係

本誌へのご意見、ご感想もお書き添え

ください。

【締め切り】

第1回●2005年11月30日消印有効

第2回●2006年1月31日消印有効

第3回●2006年3月31日消印有効

当選者の発表は賞品の発送(締め切り
の翌月中旬予定)をもって代えさせて
いただきます。

※ご記入いただいた個人情報は厳重に管理いたします。

1 ツムラの日本の名湯

毎回3名様

日本各地の温泉を科学して生まれた
薬用入浴剤です。おうちのお風呂で
温泉めぐりを楽しみながら体と心を
リフレッシュさせ
てください。

●提供/ツムラ



2 スゴイダイズセット

毎回125ml入り他

14本のギフト券を2名様

おからの部分まで使用した「ま

るごと大豆」ならではの優れた

栄養分、大豆タンパク・食物

繊維・大豆イソフラボンたっぷ

りの健康飲料です。

●提供/大塚製薬



プ
レ
ゼ
ン
ト
賞
品

one point
exercise

6

便秘に効くマッサージ

お通じがよくないと、お腹が張って、気分がすっきりしません。ひどくなると吐き気や肩こり、肌荒れなどの原因にもなります。こんなマッサージを試してみませんか。青竹踏みもいいですよ。



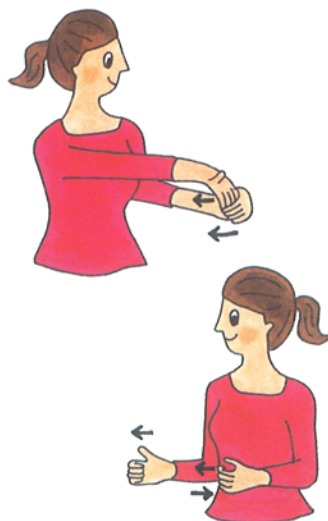
- 1 腸の調子を整えるツボは足の裏の中心からやや下方にあります。そこを、手の親指で10分間ほど、やさしくもむように押しましょう。
- 2 次に足全体をもみ、ふくらはぎをさすります。
- 3 次はお腹です。椅子に座るか、仰向けになり、おへその周りを中心に、手のひらで右回りに軽く押ししていきます。「の」の字を書くつもりで、ゆっくりと行いましょう。



指を動かして脳を活性化

「指は第2の脳」と言われるほど、指と脳の間は密接です。指先を刺激して脳を活性化させましょう。指の運動は場所もとらず、どこでもできるので、続けやすいのではないのでしょうか。眠気覚ましにもいいですよ。

- 1 まず、指反らしです。片方の手のひらを上に向けてひじを伸ばします。
- 2 親指を除く4本の指をもう一方の手で持ち、指の付け根の関節をゆっくりと手の甲側に反らせます。
- 3 5秒ほどでゆるめ、数回繰り返したら、反対側の手も同様にします。
- 4 次は、指の屈伸です。ひじを90度に曲げ、指に力を入れながら、ゆっくりと伸ばしたり曲げたりを10回程度繰り返します。ジャンケンのゲーとパーを繰り返す要領です。



編集後記

念願の新会館完成に合わせ第6号が発刊の運びとなりました。新会館の紹介とともに医師会活動に視点を置いた特集号になっています。

西村会長へのインタビュー記事にあるように、県民に開かれた会館になっているほか、内外との情報のやりとりのためIT対応が十分なされています。また、この会館は、会員の生涯教育や地域住民の健康づくりに取り組む拠点になることも想定してつくられました。

健康づくりというと、国や地方行政はすぐに数値目標を掲げますが、本来この数値には隠れた要因が絡んでいて、必ずしも正確な目標を示さないことや、達成不能な数字になっている場合が多いのです。

私たち県医師会としては、数値目標を安易に設定するのではなく、地道に実践を積み重ねていくべきものと考えています。(M・Y)

【編集スタッフ】竹政順三郎 山川雅義 山鳥嘉彦 北川武志 足立光平 大林良和 大田黒義郎 渡辺弥生 近藤七郎 門屋眞知子 江草康夫 西脇 至 児玉 岳



パルス
Pulse

平成17年9月発行 通巻6号

発行 社団法人兵庫県医師会

〒651-8555 神戸市中央区磯上通 6丁目1番11号

☎078-231-4114 <http://www.hyogo.med.or.jp>

編集・制作 神戸新聞総合出版センター

協力 さくら企画

デザイン BEE FLIGHT